

グループ演習発表内容要約

一般社団法人北海道高齢者向け住宅事業者協会

研修名	平成 27 年度第 1 回サービス付き高齢者向け住宅等虐待防止研修
開催日	平成 27 年 9 月 1 日 (火)
講義名	住宅における高齢者虐待防止について (第 3 講)
講師	社会福祉法人北海長正会 常務理事・総合施設長 三瓶徹
演習テーマ	サービス付き高齢者向け住宅利用のお客様で徘徊する認知症の人の課題とその解決に向けた取組みについて
演習内容	テーマについてメンバーが気づきや取組みを発表し、取り組める事柄についてグループで話し合いまとめてみます。

各グループでまとめた取組み内容 (A~H グループ)

A グループ :

- 挨拶の習慣化。「いってらっしゃい」「おかえりなさい」の声掛けでコミュニケーションを大切にする。
- カウンターなどから見渡せるような構造配置。
- 特養などに見られる部屋を一步出ると誰かの目に留まるようなユニットケア式の構造。
- 認知症が進行した場合には、医師の意見・治療方針を尊重し大切にする。
- アセスメントを実施して、サ高住等に住み続けることの是非を見極める。
- 一律的に徘徊を止めることはできないので、認知症そのものを町ぐるみでポピュラー化していく。サ高住が増えてきているので、そこが避難所になるような町作りを目指す。

講師コメント :

- 最後にあった認知症の方を地域で見守っていこうとの取組みは素晴らしいと思います。

B グループ :

- インターフォンを鳴らして徘徊する方の事例に対する解決例
訪問診療医を含めたカンファレンスを実施して、薬の調整をすることにより、今のところは解決しています。
- 他利用者の部屋をノックして徘徊する方の事例に対する解決例
施設の方々に周知して全体で見守るようにした結果、今のところは解決しています。
- 徘徊して部屋を間違ってしまう方の事例に対する解決例
カンファレンスを実施して、定期巡回・訪問の回数を増やすことにより、見守り機会を多くして解決しています。
- 住宅から出て行ってしまう方の事例に対する解決例
日中は散歩や声掛けなどで気分転換をしていただく。夜勤者が一人で居る夜間や朝方は、出て行く時に玄関のセンサーが鳴るようにして対応している。
居室を判り易くするなど環境整備面を工夫することで落ち着いている。

講師コメント :

- 他者の部屋をノックする場合はトラブルにもなります。放置しておくとも問題になりますから、しっかりと取り組むべき課題ですね。

C グループ：

- 認知症の方が8名ほど住んでいるサ高住では、日中の徘徊対策として一人の職員が4～5名の方と一緒に散歩にお連れしている。
- 一人で買い物に行ける方の事例です。外出時に息子さんに連絡して、首に下げているGPS機能付きの携帯電話によって息子さんに居場所を確認してもらっている。最近では症状が進んで住宅に戻れなくなってきたので、町内会長に写真を渡して協力をお願いしているが、周りに団地が多く難しい状況とのことで、只今検討中です。スーパーに相談したが、高齢者の買い物客が多く、一人だけのために管理はできないとのことで、こちらも検討中です。交番や町内会などの外部ネットワークを使って本人の安全を守っていけるように検討を進めています。

講師コメント：

- GPSのような機器も大事ですね。諦めないで地域からの協力に向けた働きかけを続けていただきたいと思います。

D グループ：

- 一日に何度も散歩に出かけるが、住宅に戻れなくなってきた方の事例です。外出時にGPS機能付きの携帯電話を持参してもらって、15分毎にタブレット端末で居場所をモニターしています。
- 散歩する入居者の写真や情報を近隣の店舗や警察署に提供して協力をお願いしています。

講師コメント：

- こちらも地域とGPSがキーワードになっていますね。

E グループ：

- 転倒のリスク対策としてのセンサー対応による見守り。
 - 他部署との連携による見守り。
 - 徘徊する方と共に行動する。
 - デイサービス利用などの日中の活動によって、夜間にしっかりと睡眠していただけるようにする。
 - 一人で居ると寂しい方もいるので、食堂などの人が居る場所に居てもらおうようにする。職員が対応して本人に安心していただく。
 - 医師からの薬の処方によって落ち着いた方もいた。
 - 環境の変化によって一時的な徘徊があったが、暫くすると落ち着いた方もいた。
 - 「まだ自分は何でもできるのに…」という方には気持ちを汲み取ったり話を聴いたりする。
- 以上をまとめると、「徘徊をやめさせる」のではなく、本人に安心してもらえるような声掛けをすること、そばに居てあげること、本人の気持ちを汲み取ることが大事である。そして、他部署との連携により多くの目で見守って対応することも大事である。

講師コメント：

- 先ず一つは声掛けですね。デイサービスの利用が挙がっていましたが、ケアマネとの情報交換に発展させても良いと思います。

F グループ：

- 住宅内における対策
 - ✓ 夜間の徘徊に対しては巡回を増やす。
 - ✓ 関わりを持つことによって状態が安定するのでは、との意見
 - ✓ 就寝介助によって安定して就寝していただくことができるのでは、との意見。
 - ✓ デイサービスの利用を増やして日中の活動を多くしていただく。
- 外に出る場合の対策
 - ✓ 名刺を作り、それを持っていただく。
 - ✓ 徘徊の頻度が一定以上になる場合は、家族に相談して住み替えを含めた検討を実施する。

講師コメント：

- 名刺を持っていただく取り組みは確かにありますね。

G グループ：

- 外に出る場合の対策
 - ✓ 警察や消防に顔写真等の情報を提供する。
 - ✓ GPS 機能を利用する。
- 住宅内における対策
 - ✓ 徘徊訪問先の入居者にコールを鳴らしていただき、出向いた職員と一緒に戻っていただく（他入居者の協力が必要）。
 - ✓ 日中に職員と共にゴミを出す、新聞紙を紐で縛る、牛乳パックを切るなどの作業を続けたところ、自分の役割と見なして毎日続けるようになった。結果的に徘徊がなくなった。
 - ✓ デイサービスへ「働き」に行く感覚を持っていただく。

講師コメント：

- 認知症の方に寄り添っていく取り組みですね。

H グループ：

- 住宅内における対策
 - ✓ 他人の部屋に入る、トイレ以外で尿を排泄する、大声で叫ぶ、そのような方に対して外出同行サービスやレクレーションを共に楽しむなどの取り組みを実施した。
 - ✓ ご家族が協力的な場合は、電話でご家族と話したり家族に来ていただいたりして、落ち着きを取り戻していただく。
- 玄関の開閉を知らせるチャイムを設置する。
- 本人の表情の変化を読み取るように努める。
- 各職種間の情報共有と解決策の検討。
- 今後の課題として、町内会との連携やインフォーマルサービス利用の検討。

講師コメント：

- まとめとして整理します。地域に協力を仰ぐ意見が多く出されたことは、とても良かったと思います。サ高住の中だけで完結させずに、地域との連携を図りながら入居者を守っていく視点は素晴らしいと思います。

以上